



山岳の聖地 西条



江戸時代に広まった市松模様。粋な日本らしさを描いたデザイン「組市松紋」が2020年東京オリンピックのエンブレムに決定しました。形の異なる四角形がつながり合うデザインには「多様性と調和」のメッセージが込められているそうです。

さて、そのオリンピックの追加種目として承認されるだろうと目されているのが、スポーツクライミング。これは、えひめ国体の山岳競技会場として、石鎚クライミングパークSAIJOを整備した西条市にとって願ってもない好ニュースです。

早速、4月には鈴木大地スポーツ庁長官を訪問し、石鎚クライミングパークSAIJOをPRするとともに、西条市の環境やスポーツ合宿誘致の実績などを紹介しました。長官からは「昨年の和歌山国体で山岳競技を視察したが、西条市にもすばらしい施設が完成したと聞いている。豊富な食材や温泉など、滞在する選手の環境についても期待しています」とのうれしい言葉をいただきました。

オープンから1年を迎えた石鎚クライミングパークSAIJOは、愛媛県や体育協会、山岳連盟からのご支援のもとで利用者も順調に推移しており、えひめ国体を見据え、山岳競技の普及促進や山岳競技選手の発掘・育成・強化に向けて、実績を積み重ねております。

スポーツクライミングがオリンピック競技に決定されたあかつきには、石鎚クライミングパークSAIJOを日本代表選手の強化練習の活動拠点や、諸外国の選手の事前合宿地として積極的に活用してもらいたいものです。

石鎚山は昨年、開山1,330年、国定公園指定60周年という節目の年を迎え、より多くの登山客が訪れました。今年は8月11日が「山の日」として祝日に制定されたこともあり、昨年にも増してにぎわいが期待できます。

大自然を満喫できる本格的な石鎚登山と、競技を楽しむことができる石鎚クライミングパークSAIJOを併せ持つ西条市を、偶然とは思えない数々の出来事が相乗し、後押ししてくれているようにも感じます。

スポーツを通じた交流も深まり、西条市が「山岳の聖地」と評される日が来ることに夢が膨らむばかりです。

悠久にわたり、ふるさとを守り、豊かな恵みを与えてくれている石鎚がまた一つ、私たちに未来への大きな夢を与えてくれました。感謝ですね。



東予港港湾整備促進期成同盟会

東予港の早期整備実現に向けて総会開催

西条市の産業・経済の発展と、市民の安全安心に必要な東予港の早期整備実現のため、東予港港湾整備促進期成同盟会の総会が5月16日に開催されました。総会では東予港西条地区での「西条第1（東）防波堤」や同中央地区での「複合一貫輸送ターミナル」などの早期整備の実現を目指し、関係各方面に強く要望および運動を展開していくことを決議しました。

総会後は、日本港湾協会の池田直太研究主幹や、国土交通省四国地方整備局の菅沼史典次長から、今後の港湾整備に向けての貴重なご講演をいただきました。

市では今後も国・県など関係各方面と連携し、地域の産業活動や物流を支える東予港の機能拡充・強化を推進していきます。

問合せ 市庁舎新館3階 港湾河川課 TEL0897-52-1236



▲日本港湾協会
池田直太氏



▲四国地方整備局
菅沼史典氏